

●●●●● 消防団員災害救援ストレス対策研修を受講して ●●●●●

神戸市消防局

1 はじめに

神戸市は市域面積約 553 平方キロメートル、人口 154 万人を擁する政令指定都市です。

地勢としては、標高 931 メートルの六甲山を主峰とする六甲山系により市域が南北に二分され、大阪湾に面した南側の山麓部に沿って東西に細長く都市部が広がり、北側は帝釈・丹生山系を中央に北に丘陵地、西に丘陵地と平野というように非常に多彩な地形を有しています。

神戸は港町としても有名で、港町としての歴史は奈良時代の「兵庫の津」にまで遡ることができますが、今日の国際港湾都市へ大きく発展するきっかけとなったのは 1868 年の神戸港の開港ということがいえます。

観光面では随所で 1 千万ドルの夜景が楽しめる六甲山系、日本三古湯の一つに数えられる有馬温泉、北野町の異人館街、日本三大中華街である南京町など、国際色豊かな観光都市としての顔も持っています。

2 神戸の災害

「神戸で災害といえば水害」というほど神戸はたびたび大水害に見舞われ、市街地を中心に大きな被害を受けてきました。



これは、六甲山系が風化した花こう岩に覆われているため、豪雨による土石流が発生しやすいことが要因となっています。

昭和 13 年の阪神大水害では豪雨による山崩れや土石流が相次ぎ、河川決壊による濁流で多くの民家が押し流され、当時の市域で死者、行方不明者が 600 人以上に上りました。

この水害について、作家の谷崎潤一郎氏は自身の小説「細雪」で、土石流の様子を記しているほどです。

そして平成 7 年には神戸市を含む兵庫県南部地域を直下型の地震が襲い、営々と築き上げてきた都市機能が停止するほどの甚大な人的・物的被害を受けることになりました。

阪神淡路大震災と命名されたこの災害から、来年で 20 年となりますが、この間にも日本各地において地震や台風、豪雨などによる被害が相次いで発生しています。

中でも 2011 年の東日本大震災は、その膨大な人的・物的被害を前に、これらの災害を教訓に、今後起こりうる災害にどう備えていくか絶えず検討し続けていかなければならないと痛感しています。

3 神戸市の消防団

神戸市の消防団は昭和 22 年の 11 月に発足し、現在は市の 9 つの行政区に 1 ないし 2 の消防団が置かれており、10 消防団、15 支団、159 分団、162 班、全消防団員の定員は 4,000 名です。

各消防団は区域の広さや地理的条件、歴史的経緯などにより、活動の内容や装備に差異はありますが、災害時には区域を超えて互いに消防力を補完し合うという考え方があり、区域外への大規模な応援を初めて行ったのが、阪神淡路大震災でした。

当時、北区、西区の消防団員約 2,700 名は、ライフラインが途絶する中、被害が甚大な市街地域に出動し、被災地消防団とともに大規模火災の防御や倒壊家屋からの人命救助、警戒などの活動を長期間にわたり実施しました。

4 災害救援ストレス対策研修開催の経緯

阪神淡路大震災では、被災者が受けたさまざまな苦悩に対するケアが急務となり、早い段階から地元の保健所を中心に避難所への巡回が行われました。

惨事ストレスという言葉が広く認知されたのはこの阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件が契機といわれています。

一方、救援活動を行う消防団員も凄惨な現場で活動することで、知らず知らずのうちにストレスが蓄積し、後にさまざまな形で影響が生じることがあるということが明らかとなり、心のケアサポートシステムの構築につながっていますが、消防団幹部として消防団員が受けるストレスにどう対処すべきかについて正しい知識が必要と考えていました。

そこで、南海トラフ地震を踏まえ 24 年度から実施している幹部特別研修の一環として、惨事ストレスに関する研修を検討していたところ、消防基金から消防団員の災害救援ストレス対策研修についてサポートいただけるというアドバイスを頂

いたことから、平成 26 年度は消防基金と共催で「消防団員災害救援ストレス対策研修」を開催することになりました。

5 研修を受講して

阪神淡路大震災時に現場での活動経験がある消防団長からは「当時はこのような考え方はあまり一般的ではなかった」との感想があり、受講者アンケートでは、「消防団の本部役員や分団長に研修内容を説明したい」、「活動する団員が発するサインを注意深く観察する必要性を認識した」といった感想がありました。

今回の研修目的は、消防団員の惨事ストレス対策に関する事前教育、普及啓発でしたので、期待した研修効果は得られたと思います。

今後も救援活動を実施する消防団員が受ける惨事ストレスに対し知識を深め、サポート体制について研究していきたいと考えています。

